

5期生最終成果報告会が開催されました！

教科教育高度化分野と特別支援教育分野が新設された新・三重大学教職大学院の初めての修了生となる5期生。2023年2月18日（土）、2年間の学びの集大成となる「最終成果報告会」が開催されました。学内外から多くのかたにその成果報告を見届けていただくことができました。



名前	テーマ
岡田 高德	ライフキャリア教育推進に関する研究 —公立小学校のアクションリサーチと授業実践を通して—
小倉 穂乃実	小学校教育における方言の位置と価値
北風 翔大	高等学校における国語科クリティカル・リーディングの理論と実践
木下 絵里加	詩の授業の課題と提案 —創作・対話・文字表現の活動を通して—
木村 弘孝	不登校の未然防止を目的に設置した校内の心等の居場所での教育実践 —長期実習等を基にした「木村の部屋」での活動—
駒田 健志	「レトリカル・ループリック」を用いた指導と評価の一体化 —対比・類比による題名表現の探究を通じて—
阪本 明士	生徒から社会人へのトランジションにおけるリーダーシップ教育の実践的研究 —シェアド・リーダーシップ論を中心にして—
鈴木 理奈	高等学校化学における科学的に探究する力と態度を育成する授業づくり —学習者によるデジタルストーリーテリングの作成を通して—
鈴木 一将	小学校における主体的な学びを目指す授業改善の試み —動機づけの理論に基づく働きかけを通して—
武田 彩那	見通しをもった観察、実験を行うための授業に関する研究 —仮説設定、計画立案の過程を通して—
中西 翔野	小学校社会科の話し合い活動における教師の働きかけに関する研究 —子どもどうしの話し合いが深まるために—
中村 数理	物語の「学びのつながり表」の開発 —読み方を蓄積し活用できる子どもをめざして—
橋本 銀司	ルートの数の指導に関する実践的考察 —正方形の面積と一辺の長さに着目して—
古瀬 智也	理科における見方・考え方を育む「螺旋型」学習モデルの提案 —「学びの内省」過程に見られる「思考のかぎ」の活用に着目して—
森井 集也	知的障がいにおける自立活動の研究 —必要なアセスメントの観点について—
山本 洋也	A市中学校における同僚性を構築するシステムの形成と継続 —学校長と教育行政との関わりに着目して—
若林 徳亮	協働的な学習における子どもの学びの生成過程に関する実践的検討 —小学校体育科と国語科の小集団学習に着目して—

報告を終えた5期生の感想を紹介します。

「達成感がない…」私が報告会后に感じたことです。なぜかという、学修成果報告書を書き終えても、無事に報告できて、自分自身の研究に納得していないからです。もちろん、自分ができることはやりきりました。この2年間の学修には悔いはなく、感謝の気持ちでいっぱいです。報告会后の教授の講評にあったように、ようやくスタート地点に立てたということです。これからが大事。自分自身に問題提起し、省察の実践家であり続ける。そんな決意を抱く報告会になりました。この2年間、携わっていただいたすべての方々に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

学校経営力開発コース 経営力開発分野
岡田 高德



まずは、今回の最終成果報告書の作成、最終成果報告会の実施に携わっていただいた皆様に御礼申し上げます。私たちの研究は決して一人でできるものではなく、ご指導いただいた先生方、各実習校で御協力いただいた皆様があったからこそです。本当にありがとうございます。先日の最終成果報告会では2年間の集大成をお見せできたのではないかと思います。個人的な成長としましては、実際に生徒と共に学ぶことで教師もまた成長するのだと真に気付けたことです。これは授業分析の際に感じましたが、生徒の思考は多様で面白く、こちらの意図する部分で無いこともありました。しかし、それが授業づくりの新たな視点や研究を進めるきっかけになることもありました。2年間という区切られた期間での学びはひと段落終えましたが、私たちの目指すところはここで終わりではありません。今後とも教職大学院での学びを活かし、可能な限りの努力を欠かさず継続する中で、目指す教師像に近づきたいと強く思います。満足してはいけません。私たちの教員人生はまだ中途なのであります。

教育実践力開発コース 教科教育高度化分野 国語 北風 翔大



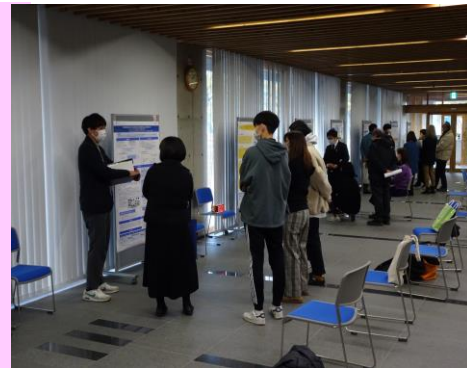
6期生中間報告会を終えて

2月2日(木)、6期生の1年間の学びの成果と、現任校実習、連携校実習の計画を報告する中間報告会が開催されました。今年度は対面でのポスターセッションとなり、それぞれのブースで活発なディスカッションが行われました。



自分が行っている研究を、みなさんとディスカッションできる場はそうそう多くありません。今回のポスターセッションでは、見に来ていただいた方々といろんな意見を交わしていく中で、自分の考えていたことがより明らかになったり、また深く考えたりしようと思うきっかけを頂くことができました。また、見る側においても、ふっと湧いた疑問に答えてもらったり、感想を伝え合ったりすることで、発表者の考えがより分かりました。自分の研究のテーマを実践を通して深化させていくことはもちろんではありますが、お互いの研究を通して考えたことも視野に入れながら、長期実習に臨みたいと思います。

教育実践力開発コース 教科教育高度化分野 国語 片山 有梨世



第3回中間報告会を、ポスターセッション形式で無事に開催できましたこと、諸先生方、関係者の皆様に感謝の思いでいっぱいです。教職大学院では、中間報告会を定期的に開いています。中間報告会は、自身の研究を深め見直す機会であるとともに、先生方や仲間に意見をいただく貴重な場でもあります。新たな視点に気づき、自身の考えをさらに深め、邁進できる大変恵まれた環境であることに日々感謝しながら、中間報告会で学び得た数々のことを今後の研究、連携校実習に活かし、研鑽を積んでいきたいと考えています。

教育実践力開発コース 特別支援教育分野 島本 姫佳

編集・発行 三重大学大学院教育学研究科 教職実践高度化専攻(教職大学院)入試広報部会

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577

✉ info-mkd@edu.mie-u.ac.jp

三重大学教育学部・教育学研究科ホームページ <https://www.edu.mie-u.ac.jp/>